

『すばらしいこと』(マタイの福音書 17章 1-13節) 2021.2.28.

<はじめに> いいことや大きな出来事などがあると、何かに書き残し、また伝えたくります。この物語は普通あり得ないことが綴られています。マタイはこの現場にはいませんでしたから、誰かから伝え聞いたことを記したのでしょう。それくらいにすごいことがここに描かれています。

I 物語を振り返る

① 高い山に(1)

「それから六日目に」は、前章からの続きです。そこではどんな出来事がありましたか。イエスが誰を伴って山に登られましたか。なぜ彼らだけを連れて行かれたのでしょうか。前章はピリポ・カイザリアでの出来事でした。ならば高い山とはどこだと思えますか(地図)

② 山の上で(2-8)

弟子たちは光り輝いたものを3つ見ました。何ですか。弟子たちはどんな情景を見ましたか(4)。それは最後まで同じでしたか(8)。弟子たちはどんな声を聞きましたか。その声に彼らはどんな反応をしたでしょう。

③ 山を下るとき(9-13)

イエスが弟子たちに命じたことは、どんなことでしたか。10節から、律法学者たちはメシアが来る前に何が起こると言っていたのでしょうか。イエスは「エリヤはすでに来た」と言います。それは誰のことを言われたのですか。

II すばらしいこと

① 神に選ばれる(1)

イエスが選ばれたこの3人は優れていたからでしょうか。神は全員を常に均等にではなく、むしろ各自の能力(25:15)・信仰(ロマ 12:3)・賜物(エペ 4:7)に応じて個別に扱われます。また選ばれても応じなければ無意味です。大切なことは主とつながっていることです。

② 完成された(2-3)

山上で見たイエスの栄光の姿は、神の御子が人となって歩まれた完成を表します。雲の中からの声(5)もその承認です(3:17)。このまま天に移されても良かったのですが、そうされませんでした。「エルサレムで遂げようとしておられる最期」(ルカ 9:31)に向かうためです。

③ 栄光の証人

この出来事は、イエスが真に神の子であると弟子たちが確信する体験でした(II ペテロ 1:16-19)。モーセ、エリヤも現れての話題が十字架であったことも驚きでした。彼らがこのことを、この時、完全には理解できませんでしたが、後日悟る有力な根拠となりました。

III もっとすばらしいこと

① 人の子が受ける苦しみ(9-13)

キリストの前にエリヤが現れることから、主はご自身も受ける苦難を予告されました。主の十字架によって、私たちは罪から救われ得るのです。十字架が受け入れられない者に、復活などより難解です。十分理解できていないことを他言するのは誤解の素です(9)。

② イエスのほかには(8)

不思議な栄光の数々が展開された山の上での経験でしたが、雲が消え、目を上げると、そこにはイエスしかおられません。奇跡も幻も一過性ですが、御子イエスは永遠不易です(ヘブル 13:8)。「彼の言うことを聞け」の御声に従い、この方を見、聞き続けるのです。

③ 山を下るイエス(9)

この場に立ち会えて興奮したペテロは提案します(4)。なぜそう言ったのでしょうか。人は高揚状態に留まりたいと願いますが、より大切なことへと歩みを進めなければなりません。それが苦難を伴ってもです。そのために、イエスは弟子たちとともに山を下られました。

<おわりに> 「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。あなたがたが、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです。」(I ペテロ 1:8-9) (H.M.)